

防災

箱根の火山性地震について

川端 祥介

Q 今年に入り、箱根地域では火山性の微少な揺れが多く、人体に感ずる揺れも観測されました。今年のこれまでの箱根地域における地震について、気象庁や温泉地学研究所など

A 今回の大涌谷周辺に於ける火山活動に関しては、神奈川県や気象庁が、常時行っている観測により1月初旬からその兆候が察知されている。各関係機関の見解は、直ちに危険という状態ではないとのこと。しかし、過去には、数ヶ月以上遅れて、新しい地熱地帯が出現したことがあり、箱根山の火山活動を注

Q 住民、観光客に対する広報、周知の実施について

A ホームページにて、1月中旬より大涌谷周辺で火山性の地震が発生していること、直ちに危険



箱根山(駒ヶ岳)

という状態ではないことをお知らせした。なお、噴火の切迫性はなかったことから、不安をおおることや風評被害などを考慮し、防災行政無線による速報は行わなかった。ホームページ以外は、町だよりによる広報を行った。

Q 地震や火山災害を想定した防災訓練の実施について

A 大涌谷では、毎年、災害に備えた研修会や避難訓練を行っており、今後も、更に広範なエリアを想定した道路規制等の訓練を行うなど、万全の備えを整えていきたい。

防災

東日本大震災の復興支援について

沖津 弘幸

Q 東日本大震災発生から3年目だが今なお多くの行方不明者の捜索が続いています。津波や東京電力福島第一原発事故の被害に直面し、故郷を後にしなければならなかった人たちもいます。災害はまだ続いています。東日本大震災の復興支援について、当町における考え方及び取り組みについて伺いたいと思います。

A 東日本大震災以降、当町も様々な復興支援に取り組んできました。人的支援については、職員派遣要請があったので、平成23年4月24日から6月13日までの間、宮城県石巻市へ6名の職員を派遣し、避難所の運営や行政事務の支援を行った。また、岩手県大槻町へは、保健指導を目的として保健師1名の派遣を行った。平成23年9月17日から平成24年3月23日までの間、順次12名の職員を福島県浪江町へ派遣し、浪江町避難者の災害対応業務等に

従事した。そして、その際の派遣職員の勤務態度、真摯な対応により、浪江町長から引続き中長期的に職員を派遣願いたいとの要請があり、平成24年4月1日から1年間にわたり、職員1名を浪江町に派遣している。なお、平成25年度も引き続き派遣を行う予定としている。

また、現在浪江町の方から箱根町との相互応援協定の締結についての相談をいただいている。遠隔地との相互応援協定に関しては昨年6月に洞爺湖町との協定を締結したところではあるが、遠隔地との相互応援協定は重要なものなので、担当課に調整を指示した。今後も可能な限りの支援をしていきたい。



箱根町役場玄関

福祉

箱根町の難聴対策について

山田 和江

Q 当町の難聴者の把握はどうしているのか

A ご本人やご家族などが申請された身体障害者手帳や箱根町災害時要援護者登録同意書兼登録台帳により把握している。加齢により難聴になる方は多いことは承知しているが、手帳所持者以外の方は日常生活に支障のない範囲であると理解している。

Q 聞こえの相談窓口の設置について

A 当町ではそのような専門的な方がいないため、手帳をお持ちの方には、年2回、神奈川県総合療育相談センターが行っている小田原市の社会福祉会館を会場とした医師やケースワーカーによる相談会を利用していたいただいている。

Q 聴力検診の実施について

A 現在、町では、実施していないが、問診として日常生活の聞き取りを行う中で、コミュニケーションが成立しにくいなど

支障が生じる場合は、専門医の受診をすすめている。

Q 磁気ループの導入について

A 磁気ループを設置するにはまず、受信者の方にも磁気信号を受け取り可能な補聴器の準備をしていただかなければならず、また補聴器は高額なものであるため、今後の検討をして、慎重に判断していかねばいけないと考えている。



耳マーク